24時間稼働のインフラ向け

遮音パネルを開発

ヤブシタ

空調メーカーのヤブシタ（札幌）はデータセンター、蓄電設備、空調・冷却設備など24時間稼働するインフラ向けに「遮音パネル」を開発した。今年1月に初公開したものをアップデートし、4種類をリリースした。

パネルは遮音と排熱を両立させたもの。自社保有の半無響音室による実測検証に加え、騒音解析・気流解析を組み合わせた「ダブル解析」で研究を重ねた。最上位モデルは低周波を含む騒音に対応する厚さ285㍉の「－30デシベル仕様」。以下210㍉の「－30デシベル仕様」、160㍉の「－20デシベル仕様」、40㍉の「－10デシベル仕様」がある。

産業用・業務用だが、住宅分野への転用も可能。担当者は「エアコン室外機や家庭用蓄電池など、騒音対策が求められる設備は増えていく」と予測。「新築・既築を問わず、工務店様やビルダー様と打ち合わせを行い、必要に応じて現地調査した上で、一件一件の条件に合わせた対応が可能」としている。